



田辺三菱製薬株式会社
CORPORATE PROFILE 2014



田辺三菱製薬

企業理念

医薬品の創製を通じて、
世界の人々の健康に貢献します

めざす姿

国際創薬企業として、
社会から信頼される企業になります

企業行動憲章

私たちは、一人ひとりが高い倫理観を持ち、
公正かつ誠実であることをすべてに優先し、つぎのとおり行動します

使命感と誇り

医薬品の創製に携わる者としての使命感と誇りを持ち、
求められる医薬品の研究開発と製品の安全性・品質の確保に力を尽くします

挑戦と革新

鋭敏な感性と広い視野で進むべき方向性を見据え、
より高い目標に果敢に挑戦し、革新的な価値を創出します

信頼と協奏

自由闊達なコミュニケーションを通じて互いを理解・尊重し、
深い信頼関係のもとで力を合わせ、成果の最大化を図ります

社会との共生

地域社会や地球環境に配慮した活動を通じ、
社会との共生を図ります

田辺三菱製薬は、私たちの存在意義・存在理由を表す言葉として、「医薬品の創製を通じて、世界の人々の健康に貢献します」を企業理念として掲げています。

2007年10月の発足以来、この企業理念と向き合い、国際創薬企業として、社会から信頼される企業になることをめざしてきました。現在取り組んでいる「中期経営計画11-15」では、“New Value Creation”をキーコンセプトとして、「新たな価値を創造しつづける企業」への変革に挑戦しています。これからも田辺三菱製薬は、「すべては患者さんのために」という共通の価値観のもと、広く世界の人々の健康に貢献することで、生命関連企業としての社会的使命を果たしていきます。

シンボルマーク



シンボルマークの形は、世界の人々の健康をやさしく包み込む手のひらであり、国際創薬企業として成長する田辺三菱製薬の未来への広がり、無限の可能性を象徴しています。

コーポレートカラーのブルーは、製薬会社としての「知性」「技術力」「倫理観」を意味し、さらに、世界の人々に役立つ医薬品の創製に挑戦する「積極性」を表しています。

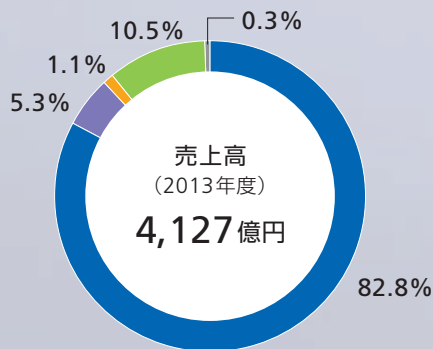
田辺三菱製薬は、自らの「飛躍」と社会の皆様からの「信頼」の証として、このシンボルマークを制定しました。



主要製品

田辺三菱製薬は、自己免疫疾患、糖尿病・腎疾患、中枢神経系疾患の薬剤をはじめ、ワクチン、麻薬など、特徴ある医療用医薬品を提供するとともに、ジェネリック医薬品や一般用医薬品の販売を通じて、幅広い医療ニーズに対応しています。

売上高構成比



国内医療用医薬品	3,417億円
海外医療用医薬品	220億円
一般用医薬品	45億円
医薬品その他 (ロイヤリティ収入等)	434億円
その他	10億円



主力製品

レミケード

国内売上高：763億円
海外売上高：0.3億円



関節リウマチ、クローン病、乾癬、潰瘍性大腸炎、ベーチェット病による難治性網膜ぶどう膜炎、強直性脊椎炎治療薬

セレジスト

国内売上高：178億円



脊髄小脳変性症治療薬

メインテート

国内売上高：155億円
海外売上高：2億円



高血圧症、狭心症、期外収縮、慢性心不全、心房細動治療薬

タリオン

国内売上高：137億円
海外売上高：8億円



アレルギー性疾患治療薬

クレメジン

国内売上高：126億円



慢性腎不全治療薬



主な新製品

(「中期経営計画11-15」期間中に上市した製品)

シンボニー

国内売上高：94億円
海外売上高：5億円

関節リウマチ治療薬



テトラビック

国内売上高：67億円

百日せきジフテリア破傷風不活化ポリオ混合ワクチン



レクサプロ

国内売上高：65億円

抗うつ薬



イムセラ

国内売上高：23億円

多発性硬化症治療薬



テネリア

国内売上高：8億円

2型糖尿病治療薬



ワクチン

国内売上高：284億円



新製品の「テトラビック」の売上高を含む。

ジェネリック医薬品

国内売上高：141億円

田辺製薬販売取扱品。ジェネリック医薬品のほか、田辺三菱製薬より移管した長期収載品を含む。



一般用医薬品

国内売上高：43億円

海外売上高：1億円



The Question We Face:

What is New Value?

新たな価値とは何か？

私たちは、この問いに向き合っていく

今、私たちはかつてない変化のただ中にいます。とりわけここ数年の間に、国内の製薬企業を取り巻く経営環境は、急激に厳しい方向に変化しました。新薬創出確率の低下、市場構造の変化などの大きな流れに加えて、医療費抑制を目的とした薬剤費削減策が強化され、後発品の使用促進により長期収載品への影響が急速に拡大しています。国内の新薬メーカーの多くは、これまで長期収載品を重要な収益源としてきましたが、そのビジネスモデルが通用しない時代になりつつあるといえます。

このような中、現在当社は“New Value Creation”をキーコンセプトとした「中期経営計画11-15」に取り組んでいます。「新たな価値を創造しつづける企業」への変革とは、まさに新たなビジネスモデルへの変革にほかなりません。田辺三菱製薬は、この前半3ヵ年において、新製品を相次いで上市し、導出した製品のロイヤリティ収入は収益の柱になりました。さらに、事業再編をはじめとした構造改革を推進するなど、環境変化に対応した新しいビジネスモデルの確立に向けて改革を着実に進めています。

2014年6月には、5年にわたり社長を務めてきた土屋裕弘が会長に、三津家正之が社長に就任し、新たな経営体制がスタートしました。新体制のもと、この変革への取り組みを一層加速していきます。

しかしながら、どのような変化の中にあっても忘れてはならないことは、「すべては患者さんのために」という私たちの企業活動の原点です。主力製品「レミケード」は、2002年に

クローン病の治療薬として発売された後も、関節リウマチや潰瘍性大腸炎などの効能追加、関節リウマチやクローン病の用法用量の変更など、着実に育薬を進めてきたことで、多くの患者さんに貢献できる製品に成長しました。その結果、新製品である関節リウマチ治療剤「シンボニー」と合わせた2013年度の売上高は、薬価ベースで1,000億円を達成することができました。製品自体の価値に、医療関係者や患者さん、そしてそのご家族とともに積み上げてきた価値が加わり、この成果に結びついたと考えています。

どんなに優れた薬でも、有効性と安全性を確立していく「育薬」というプロセスがなければ、患者さんに貢献することはできません。私たちの企業活動は、新薬を創製するところで終わるのではなく、それを育てることに続いていきます。

これからも、「すべては患者さんのために」という原点に常に立ち返りながら、「創薬」と「育薬」のプロセスを繰り返し、世界の人々の健康に貢献していきます。そのために、私たち経営陣を含めすべての従業員が、「患者さんにとっての価値は何か」という問いに向き合い、新たな価値の創造に挑戦しつづけていきます。そして、経営の透明性を高めるとともに、持続的成長の実現をめざしてまいります。株主・投資家をはじめとしたすべてのステークホルダーの皆様には、当社への一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2014年8月



代表取締役会長

土屋裕弘

代表取締役社長

三津家正之

中期経営計画11-15の概要

キーコンセプト: *New Value Creation*

期間: 2011年4月～2016年3月(5年間)

中期経営計画11-15で実現するもの:

「新たな価値を創造しつづける企業」への変革

将来の成長につながる基盤を構築する

- アンメット・メディカル・ニーズ*への挑戦
- 創製した医薬品をグローバルに提供していくための基盤整備
- 将来の成長に向けた積極投資

レミケードを中心とした重点製品と新製品を着実に育成し提供する

戦略課題:

- 1 新薬創製力の強化
- 2 新製品を軸とした国内事業の躍進
- 3 海外事業拡大への基盤構築
- 4 事業・構造改革の加速化

* 有効な治療法、医薬品がなく、未だに満たされない医療上のニーズ。

新たな価値を 創造しつづける企業へ

田辺三菱製薬は、医療用医薬品の研究・開発・生産・販売を行っています。

これらのプロセスは、大きく2つのステージに分けることができます。

ひとつは、医薬品となる候補物質を見出し、製造販売承認を受けて市販に至るまでの「創薬ステージ」です。

基礎研究や非臨床・臨床試験などを通じて、有効性と安全性に優れた医薬品の創製に努めています。

もうひとつは、より治療に貢献する医薬品にするために、その価値を高めていく「育薬ステージ」です。

効果や副作用などの情報を収集し、有効性と安全性の確立、使用方法の改善、適応拡大などを

行うとともに、品質の高い医薬品を安定的に供給するための取り組みを行っています。

これら「創薬」と「育薬」というプロセスを繰り返す中で、

私たちは新たな価値の創造に挑んでいきます。

創薬ステージ

育薬ステージ

研究

開発

生産

販売



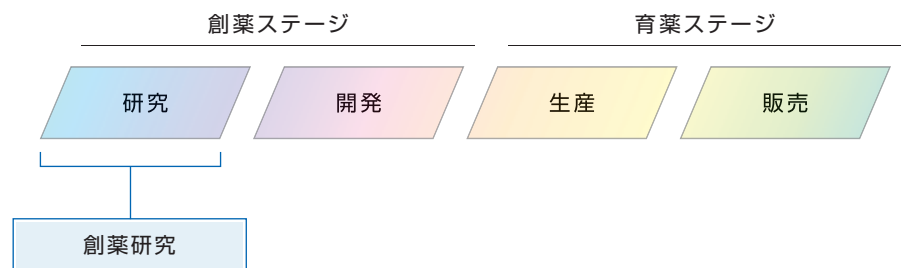


研究本部
薬理第一研究所
山口 尚子

What is **New Value**?

薬の力で、 患者さんとそのご家族に貢献する

創薬に携わる研究員が創造すべき価値は、至ってシンプルです。アンメット・メディカル・ニーズに応える医薬品の候補物質を探し出し、臨床試験のステージへと送り届けることに尽きます。その中で、私は候補物質の評価を行っています。狙ったような効果が出るのか、強さはどの程度のものか、最終的には人でも効果があり、かつ、安全なのか、ということを見極めていきます。私が担当する中枢神経系疾患は、重篤な疾患が多く含まれます。しかしながら、未解明な部分が多い領域であることから、この領域の医薬品は質的にも量的にも未だ不十分な状況にあります。本当に苦しんでいる患者さんや、そのご家族のために「薬の力」でお応えしたい。この想いを実現することが、田辺三菱製薬が社会に提供する新たな価値につながると考えています。



薬となる候補物質を創り出す

創薬研究の工程は、薬となる可能性を秘めた物質を探し出すところから始まります。まず、対象とする疾患に關与する創薬ターゲットを探し出し、あらゆる物質の中から、作用する物質を選び出します。そして、それらの有効性や安全性などの評価と改良を繰り返していきます。このような工程を通じて、医薬品となる候補物質が創り出され、臨床試験のステージへと進んでいきます。



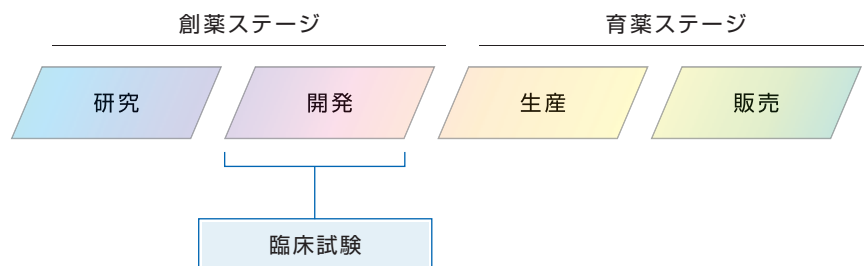


開発本部
臨床計画第二部
丸林 冬彦

What is **New Value**?

良い薬を、より早く患者さんに届ける

現在、中国などのアジア地域での医薬品上市をめざし、臨床試験の準備を進めているところです。アジア地域におけるニーズを的確に把握し、いち早く患者さんに届けたいと思っています。「良い薬を、より早く患者さんに届ける」こと。私たちが担う役割は日本でも海外でも変わることはありません。しかし、田辺三菱製薬としてはアジア地域での開発経験が少なく、この臨床試験で成果を出すことが、新たな価値のひとつになると考えています。臨床試験を通じて有効性と安全性を確認し、規制当局から承認を取得するという流れは日本と同じですが、その手続きは国や地域ごとに異なります。さらに、慣習などの違いが臨床試験の進め方に影響を及ぼすこともあり、注意が必要です。徹底的な事前調査を行い、最適な臨床試験計画を作成することで、早期上市の実現をめざしていきます。



薬の有効性と安全性を確認していく

臨床試験（治験）では、医薬品の候補物質（開発品）を実際に使用して、有効性と安全性を確認していきます。少数の健康な方を対象とした「フェーズ1試験」、少数の患者さんを対象とした「フェーズ2試験」、多数の患者さんを対象とした「フェーズ3試験」というプロセスを経て、最終的に規制当局からの承認を得た開発品が、新薬として患者さんのもとに届けられます。



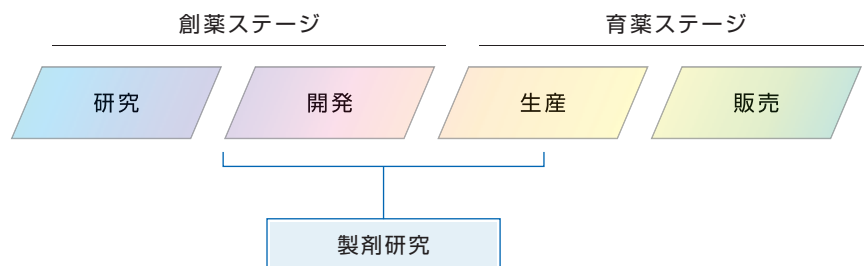


CMC 本部
分析研究所
是永 真規

What is **New Value**?

薬の有効性と安全性を 「品質」という形で守る

臨床試験に使用される治験薬等の品質管理が主な業務です。治験薬に含まれる有効成分の量などを測定し、定めた規格に適合しているのかを確認しています。治験薬の製造に要する時間が臨床試験の進捗にも関わるため、いかに迅速かつ確実に進めるかが重要です。また、将来的に工場で生産されるときに規格と試験方法の設定も行います。その規格と試験方法により、患者さんに届けられるすべての製品の有効性と安全性を「品質」という形で守っています。それが、私たちが患者さんに届ける価値ではないかと考えています。最終的には、工場品質を管理するため、誰がどこでいつ実施しても正しく迅速に測定できる試験方法を構築することが必要です。工場の現状を理解した上で、日々進歩する技術や分析機器などを試験方法に取り入れ、より優れた試験方法を追求していくことが、新たな価値につながると考えています。



薬を製品として仕上げる

医薬品には、錠剤やカプセル剤、注射剤などの様々な剤形があります。製剤研究の工程では、臨床試験に使用される治験薬を製造し、その評価を行いながら、最適な剤形へと仕上げていきます。さらに、市販後の量産化に向けて、製品としての品質を保証するための規格と試験方法を設定し、工場への技術移管を行います。



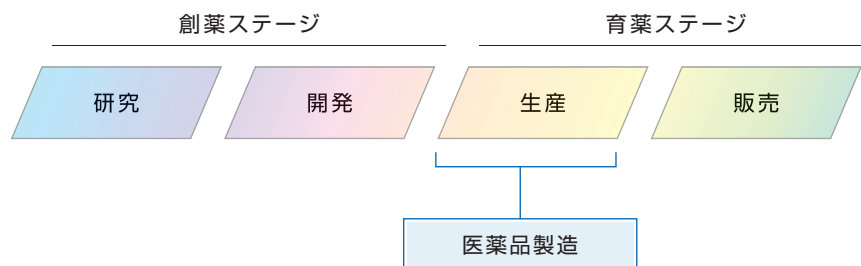


田辺三菱製薬工場
大阪工場 製造部
川島 洋二

What is **New Value**?

薬の品質と納期を守るために、 作業の価値を高める基盤をつくる

「品質と納期を守り、患者さんに薬をお届けする」ことが、生産部門に課せられた責務です。そのため基本となるのが、作業の安全を確保することです。私は管理者の立場で、GMP基準への対応や、安全に対する意識の向上に取り組んでいます。医薬品製造の作業は、一人で完結できるものではないため、協同作業者との意思疎通を円滑に行う環境を整えることが重要です。それが信頼性と安全の確保や技術継承を支える基盤となり、結果として、品質や納期を守ることにもつながってくると考えています。私が特に気を付けているのは、協同作業者が人前で発言する場を設けることです。その積み重ねにより、日々の業務の中でも自分の意見を伝えることができるようになり、さらに相手の話に耳を傾けるようになります。このように、「品質と納期を守り、患者さんにお薬をお届けする」ための基盤を整えることが、私の提供できる新たな価値ではないかと考えています。



薬の品質を確保し安定的に提供する

医薬品を安定的に供給するための生産体制を構築するとともに、患者さんに安心して使用いただくために、より一層の品質確保に努めています。国内外から調達した原材料の受入試験にはじまり、原薬・製剤製造ならびに試験検査といった、すべての製造工程をGMP（医薬品および医薬部外品の製造管理および品質管理の基準）に則り行うとともに、高品質と低コストを両立するために、生産技術の向上にも取り組んでいます。



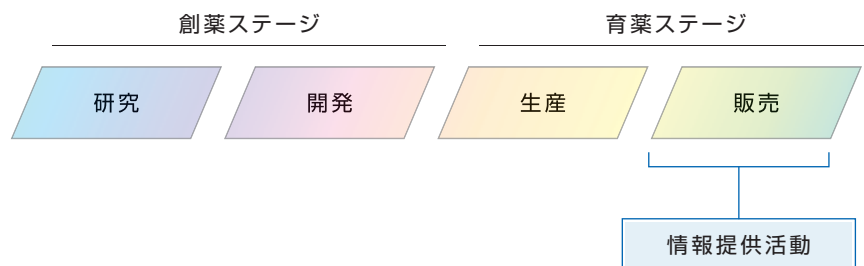


営業本部
東京支店
病院部 病院第二営業所
福倉 美智子

What is **New Value**?

薬に込められた想いまで伝える

医薬品は、長期にわたる研究開発活動の後に上市されます。私たちMR（医薬情報担当者）には、そのようにして上市された医薬品を、より多くの患者さんにお届けする責任があると考えています。安全性や有効性に関する情報を収集・提供することはもちろん、競合する製品がある中で、当社製品が貢献できる患者さんを具体的にイメージしながら、医療関係者のニーズに合致した情報を提供しています。そして、情報を提供する際に用いる様々なデータを「いかに伝えていくのか」が、私が提供する価値であるといえます。データひとつにも多くの時間と労力が費やされていることから、そこに携わってきた研究開発員の「想いまで伝える」ことを心がけています。そのために、疾患や製品に関する知識を深め、自信を持って情報提供活動を行えるようにしています。さらに、挑戦したいのは、医療現場の想いを伝えること。新薬の創製という新たな価値につなげるために、医療現場で得た情報を研究開発の現場にフィードバックすることにも取り組んでいきます。



薬の適正使用情報を提供する

医薬品は、用法や用量など、適正な情報とともに使用していただかなければ、十分な効果を発揮することができません。その情報の担い手となるのがMRです。医師をはじめとした医療関係者に、有効性だけでなく、副作用などのリスクを含めた安全性に関する情報を提供することで、医薬品の適正使用の促進につなげています。



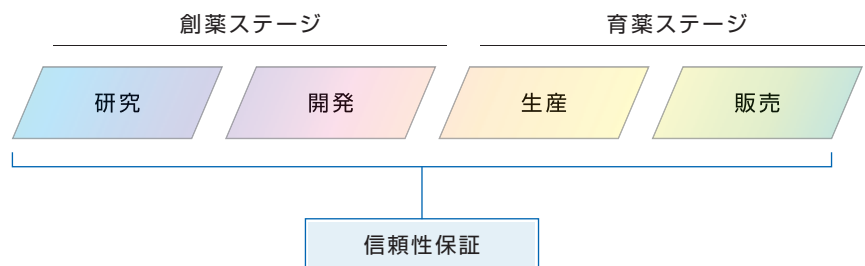


信頼性保証本部
安全性データ部
柴田 浩司

What is **New Value**?

薬という物質に、情報という価値を付加する

医薬品は、有効性や安全性に関わる情報に基づき適正に使用されることで、効果を発揮します。薬という物質が、医薬品として成り立つための生命線が「情報」にあるといえます。医薬品は臨床試験を経て発売されますが、市販後は多くの患者さんに服用されるようになることから、市販前には想定できなかった効果や副作用などが明らかになることもあります。私はそのような市販後に得られた情報を収集し、データベース化する業務を行っています。データベース化された情報が解析され、医療現場に新たな情報としてフィードバックされることで、安全が確保されます。薬の有効性や安全性に関わる情報を付加し、適正な使用方法を確立していくことが、私が提供すべき価値ではないでしょうか。また、新たな価値という面では、治療に役立つ情報をより早く患者さんに届けることが課題です。そのために、業務の迅速化に努めるとともに、本当に必要な情報を探り出すために、医療現場の声を活かす取り組みを始めています。



薬の信頼性を高める

研究、開発、製造、販売という、すべてのプロセスに対する信頼性を高める取り組みを行っています。各種試験の質や、治験薬および医薬品の品質を確保するとともに、市販後の使用実態下における安全性等の情報の収集・評価と、それに基づく情報提供をはじめとした安全性監視活動を通じて、医薬品の安全性を継続的に確保することに努めています。



新製品開発状況

2014年5月8日現在

「中期経営計画11-15」開始から現在までの間に、国内では5件の新規化合物と9件の効能追加、海外では8件の新規化合物が承認を取得しました。さらに、導出品では7件が承認を取得しました。2014年5月8日現在では、以下に挙げる製品開発プロジェクトに取り組んでいます。

領域： ■ 自己免疫疾患 ■ 糖尿病・腎疾患 ■ 中枢神経系疾患 ■ ワクチン ■ その他

開発状況

治験コード (一般名)	薬剤分類	適応症	地域	開発段階				起源 (備考)	
				フェーズ			申請		
				1	2	3			
新規薬剤									
TA-7284 (カナグリフロジン)	SGLT2 阻害剤	2型糖尿病	日本				13.05	自社 (2014年7月に承認取得)	
MP-424 (テラプレビル)	NS3-4A プロテアーゼ阻害剤	C型慢性肝炎	台湾 韓国				13.01	米：ヴァーテックスファーマシューティカルズ	
MT-4666	α7nACh 受容体作動剤	アルツハイマー型認知症	国際共同 治験 ¹					米：フォーラムファーマシューティカルズ ²	
MP-214 (カリブラジン)	ドパミンD3/D2 受容体 パーシャルアゴニスト	統合失調症	日本				フェーズ2b/3	ハンガリー：ゲデオン リヒター	
MT-9938 (ナルフラフィン)	κオピオイド受容体作動剤	透析患者における難治性 そう痒症	米国					日本：東シ	
MP-513 (テネリグリブチン)	DPP-4 阻害剤	2型糖尿病	欧州 米国					自社	
MT-3995	選択的ミネラルコルチコイド 受容体拮抗剤	糖尿病性腎症	欧州 日本 米国					自社	
MT-1303	スフィンゴシン1リン酸受容体 機能的アンタゴニスト	多発性硬化症 乾癬 炎症・自己免疫疾患	欧州 欧州 日本、欧州、 米国					自社	
インフルエンザワクチン	植物由来VLPワクチン	インフルエンザ (H5N1) の予防	カナダ					自社	
インフルエンザワクチン	植物由来VLPワクチン	季節性インフルエンザ の予防	米国				フェーズ1/2	自社	
インフルエンザワクチン	植物由来VLPワクチン	インフルエンザ (H7N9) の予防	カナダ					自社	
GB-1057 (人血清アルブミン 〔遺伝子組換え〕)	遺伝子組換えヒト血清 アルブミン	安定化剤	米国					自社	
MP-124	PARP 阻害剤	脳梗塞急性期	米国					自社	
MP-157	アンジオテンシン タイプ2 受容 体作動剤	高血圧	欧州					自社	

製品名 (一般名)	薬剤分類	適応症	地域	開発段階				起源 (備考)	
				フェーズ			申請		
				1	2	3			
テラピック (テラプレビル)	NS3-4A プロテアーゼ阻害剤	C型慢性肝炎 (ジェノタイプ2) C型慢性肝炎 (ベガシス併用) C型慢性肝炎 (フエロン併用)	日本				13.12	米：ヴァーテックスファーマシューティカルズ	
ラジカット (エダラボン)	フリーラジカル消去剤	筋萎縮性側索硬化症 ³	日本					自社	

製品名 (一般名)	薬剤分類	適応症	地域	開発段階				起源 (備考)
				フェーズ 1	2	3	申請	
タリオン (ベボタスチン)	選択的ヒスタミンH1受容体拮抗・アレルギー性疾患治療剤	小児・アレルギー性鼻炎 小児・アトピー性皮膚炎	日本	■	■	■	■	日本：宇部興産 (2014年5月に申請)
レミケード (インフリキシマブ 〔遺伝子組換え〕)	抗ヒトTNF α モノクローナル抗体製剤	難治性川崎病 ³ 特殊型ベーチェット病 ³ 小児・クローン病 小児・潰瘍性大腸炎 乾癬：用法・用量の変更 (増量)	日本	■	■	■	■	米：ヤンセン・バイオテック
イムセラ (フィンゴリモド)	スフィンゴシン1リン酸受容体機能的アンタゴニスト	慢性炎症性脱髄性多発根神経炎	国際共同 治験	■	■	■	■	自社 (日本はノバルティスファーマと共同開発、海外はノバルティスに導出)
トリビック (沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン)	ワクチン・トキシノイド混合製剤	百日せきジフテリア破傷風 感染予防：2期接種	日本	■	■	■	■	日本：一般財団法人阪大微生物病研究会(同研究会と共同開発)
ピンドレン (コレスチラン [INN])	リン吸収阻害作用	小児・高リン血症	欧州	■	■	■	■	自社
コレバイン (コレスチミド [JAN])	胆汁酸分泌制御 リン吸収阻害作用	2型糖尿病 高リン血症	日本	■	■	■	■	自社

導出品

治験コード (一般名)	薬剤分類	適応症	地域	開発段階				導出先 (備考)
				フェーズ 1	2	3	申請	
TA-7284 (カナグリフロジン)	SGLT2阻害剤	2型糖尿病・メトホルミン (即放性)との合剤 2型糖尿病・メトホルミン (徐放性)との合剤 糖尿病性腎症	米国 米国 国際共同 治験	■	■	■	12.12 ⁴	米：ヤンセンファーマ シューティカルズ
MP-513 (テネリグリブチン)	DPP-4阻害剤	2型糖尿病	韓国	■	■	■	13.09	韓：ハンドク
FTY720 (フィンゴリモド)	スフィンゴシン1リン酸受容体機能的アンタゴニスト	慢性炎症性脱髄性多発根神経炎	国際共同 治験	■	■	■	■	スイス：ノバルティス (日本は当社とノバルティスファーマの共同開発)
T-0047 (フィラテグラスト)	細胞接着阻害剤 ($\alpha 4\beta 7/\alpha 4\beta 1$ 阻害剤)	多発性硬化症	欧州	■	■	■	■	英：グラクソ・スミスクライン
Y-39983	ROCK阻害剤	緑内障	日本	■	■	■	■	日本：千寿製薬
MT-210	セロトニン2A / シグマ2受容体拮抗剤	統合失調症	欧州	■	■	■	■	米：ミネルバ・ニューロサイエンス
TA-7906	PDE4阻害剤	アトピー性皮膚炎	日本	■	■	■	■	日本：マルホ
MCC-847	ロイコトリエンD4受容体拮抗剤	喘息	韓国	■	■	■	■	韓：サマファーマ
TA-8995	CETP阻害剤	脂質異常症	オランダ、 デンマーク	■	■	■	■	オランダ：デジマファーマ
MT-4580	カルシウム受容体作動剤	透析患者における二次性副甲状腺機能亢進症	日本	■	■	■	フェーズ1/2	日本：協和発酵キリン
sTU-199 (テナトプラゾール)	プロトンポンプ阻害剤	胃食道逆流症	欧州	■	■	■	■	仏：ネグマ(シテム)
Wf-516	セロトニン取り込み阻害/ セロトニン1A受容体拮抗剤	うつ病	欧州	■	■	■	■	米：ミネルバ・ニューロサイエンス
Y-803	BRD阻害剤	血液がん	米国、欧州	■	■	■	■	スイス：オンコエジックス (治験コード：OTX015)

1. フォーラムファーマシューティカルズと共同開発
2. 2014年4月、エンヴィヴォからフォーラムファーマシューティカルズに社名を変更
3. 希少疾病用医薬品指定
4. 審査完了報告通知 (Complete Response Letter) 受領 (2013年12月)

財務・非財務ハイライト

田辺三菱製薬株式会社および連結子会社

2014年3月期(2013年度)、2013年3月期(2012年度)、2012年3月期(2011年度)、2011年3月期(2010年度)、2010年3月期(2009年度)

単位: 億円

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
売上高	¥4,047	¥4,095	¥4,072	¥4,192	¥4,127
営業利益	615	766	690	690	591
当期純利益	303	377	390	419	454
研究開発費	831	658	702	665	704
設備投資額	84	102	71	92	126
総資産	7,969	8,187	8,199	8,668	8,865
純資産	6,768	6,960	7,215	7,529	7,778
営業キャッシュ・フロー	239	591	372	606	699
投資キャッシュ・フロー	- 612	- 77	- 632	- 350	- 243
財務キャッシュ・フロー	- 171	- 154	- 172	- 237	- 211

財務指標

単位: %

海外売上高比率	6.6%	6.3%	7.0%	11.4%	14.4%
営業利益率	15.2	18.7	17.0	16.5	14.3
研究開発費率	20.5	16.1	17.3	15.9	17.1
自己資本比率	84.1	84.3	87.3	86.3	86.4
自己資本当期純利益率 (ROE)	4.6	5.5	5.5	5.7	6.0
配当性向	51.9	41.6	50.3	53.6	49.4

1株データ

単位: 円

当期純利益	¥53.91	¥67.27	¥69.54	¥74.67	¥80.92
配当金	28.00	28.00	35.00	40.00	40.00

非財務データ

従業員数 (名)	9,266	9,198	9,180	8,835	9,065
国内新医薬品承認取得件数 ²	0	1	3	2	0
エネルギー使用量 (TJ)	2,488	2,577	2,588	2,332	2,010
CO ₂ 排出量 (千トン)	124	122	126	123	115
廃棄物発生量 (千トン)	18	18	20	18	16

1. 米ドルの金額は、便宜上、2014年3月31日現在の為替レートである1米ドル=102.92円で換算。

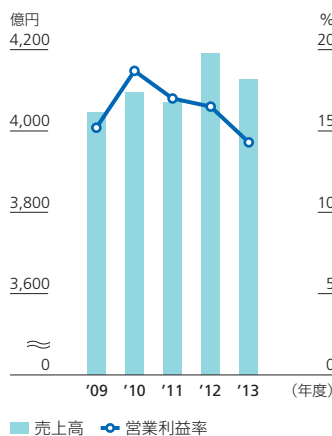
2. 共同開発を含む。

単位：百万米ドル¹

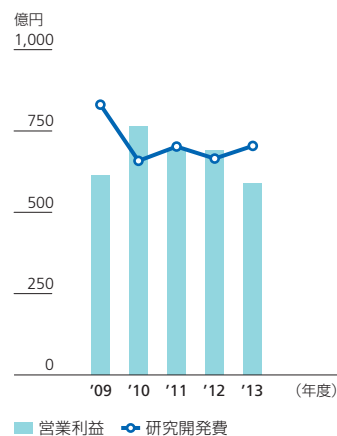
増減率

2013年度	2013年度/2012年度
\$4,010	- 1.6%
574	- 14.3
441	+ 8.4
684	+ 5.8
122	+ 36.5
8,613	+ 2.3
7,557	+ 3.3
679	—
- 237	—
- 205	—

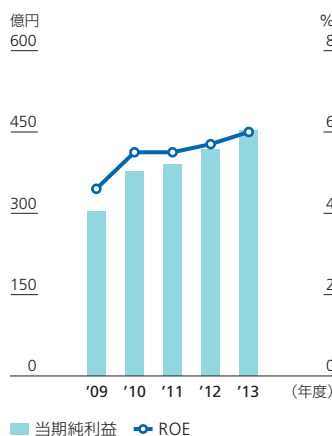
売上高／営業利益率



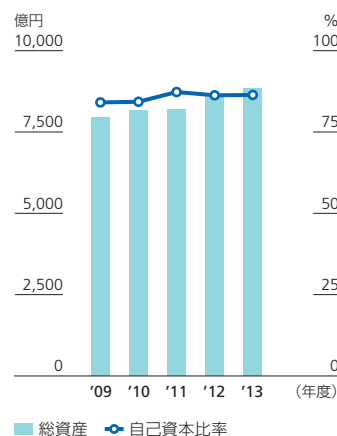
営業利益／研究開発費



当期純利益／ROE



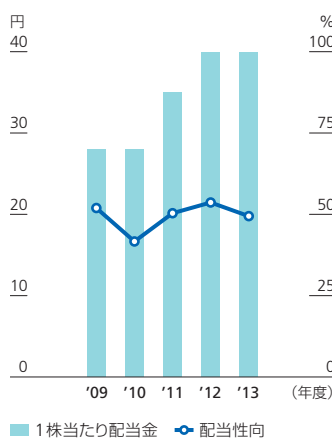
総資産／自己資本比率



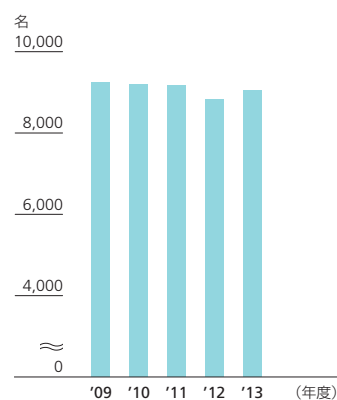
単位：米ドル¹

\$0.79	+ 8.4%
0.39	—
—	+ 2.6%
—	—
—	- 13.8
—	- 6.5
—	- 7.5

1株当たり配当金／配当性向



従業員数



会社情報 / 投資家情報

2014年3月31日現在

会社概要

社名	田辺三菱製薬株式会社
本社	〒541-8505 大阪市中央区北浜2-6-18
株式会社設立	1933年(昭和8年)
合併期日	2007年10月1日(平成19年)
従業員数	9,065名(連結) 4,867名(単独)

お問い合わせ先

広報部IRグループ
 TEL : 06-6205-5211
 FAX : 06-6205-5105
 URL : <http://www.mt-pharma.co.jp>

グループ企業

● 連結子会社 ○ 持分法適用関連会社

国内

国内	事業内容
田辺三菱製薬工場株式会社 ●	医薬品の製造・販売
吉富薬品株式会社 ●	医薬品の学術情報伝達
MPロジスティクス株式会社 ●	物流・倉庫業
株式会社バイファ ●	医薬品の製造・販売
田辺製薬吉城工場株式会社 ●	医薬品の製造・販売
田辺製薬販売株式会社 ●	ジェネリック医薬品等の販売
株式会社田辺アールアンドディー・サービス ●	医薬品の研究開発支援サービス
田辺総合サービス株式会社 ●	不動産の管理、宣伝物制作等
株式会社ベネシス ¹ ●	医薬品の製造・販売
株式会社エービーアイ コーポレーション ² ○	医薬品原体等の製造・販売

海外

アジア	事業内容
三菱製薬(広州)有限公司 ●	医薬品の製造・販売
天津田辺製薬有限公司 ●	医薬品の製造・販売
三菱製薬研究(北京)有限公司 ³ ●	医薬品の研究開発
広東田辺製薬有限公司 ●	医薬品の販売
ミツビシ タナベ ファーマ コリア社 ●	医薬品の製造・販売
台湾田辺製薬股份有限公司 ●	医薬品の製造・販売
台田薬品股份有限公司 ●	医薬品の販売
タナベ インドネシア社 ●	医薬品の製造・販売

北米

MPヘルスケアベンチャーマネジメント社 ●	バイオベンチャーへの投資事業
ミツビシ タナベ ファーマ ホールディングス アメリカ社 ●	米国グループ会社の経営管理
ミツビシ タナベ ファーマ ディベロップメント アメリカ社 ●	医薬品の研究開発
タナベリサーチ ラボラトリーズ U.S.A. 社 ●	医薬品の研究開発
ミツビシ タナベ ファーマ アメリカ社 ●	医薬品の販売
タナベ U.S.A. 社 ●	化成品等の販売
MTPC ホールディングス カナダ社 ●	メディカゴグループへの投資
メディカゴ社 ●	ワクチンの研究開発・製造
メディカゴ U.S.A. 社 ●	ワクチンの製造
メディカゴ R&D 社 ●	ワクチンの研究開発

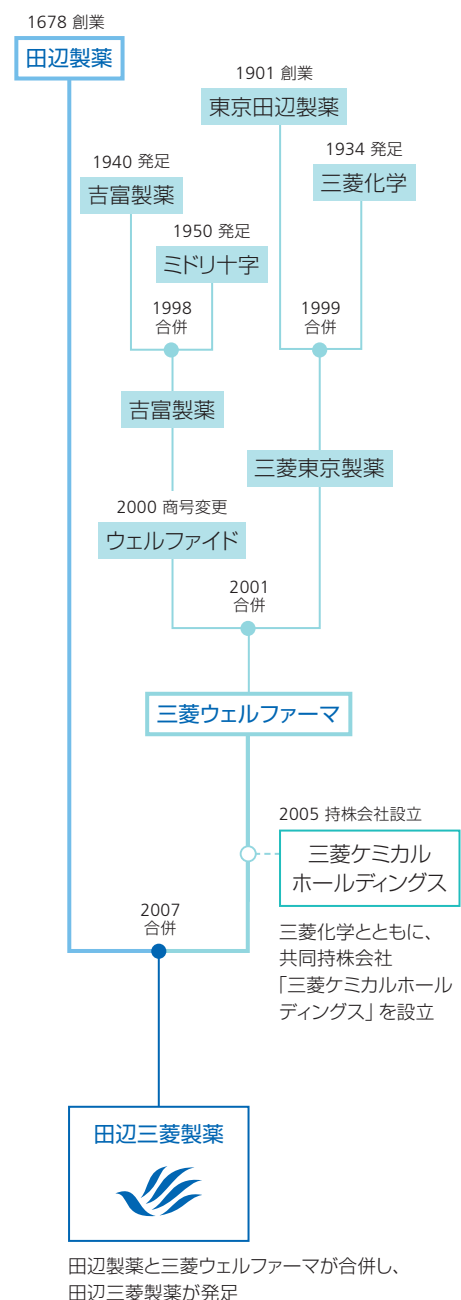
欧州

ミツビシ ファーマ ヨーロッパ社 ⁴ ●	医薬品の研究開発
ミツビシ ファーマ ドイツ社 ⁵ ●	医薬品の販売
サンテラボ・タナベ シミイ社 ○	医薬品の製造・販売

- 2014年10月1日に、当社が吸収合併する予定です。
- 2014年4月1日に、当社保有株式すべてを同社に売却しました。
- 2014年6月1日に、田辺三菱製薬研究(北京)有限公司に社名変更しました。
- 2014年6月1日に、ミツビシ タナベ ファーマ ヨーロッパ リミテッドに社名変更しました。
- 2014年6月1日に、ミツビシ タナベ ファーマ ゲーエムペーハーに社名変更しました。

注：上記以外に清算手続中の連結子会社が2社あります。

沿革



コーポレートコミュニケーションツールのご案内

田辺三菱製薬は、ステークホルダーの皆様にご理解を深めていただくために、制度開示資料に加え、各種コミュニケーションツールをご用意しています。

持続的成長に向けた取り組みをお伝えするために

田辺三菱製薬コーポレートレポート2014



株主・投資家をはじめとしたステークホルダーの皆様へ、田辺三菱製薬の持続的成長に向けた取り組みをお伝えするために制作しています。編集においては、国際統合報告審議会（IIRC）*が提示するフレームワークを参考にし、当社の統合報告書と位置付け、短、中、長期の価値創造に関する報告を中心に構成しました。「事業概要セクション」では「価値創造を実現するビジネスモデル」を、「事業戦略セクション」では「価値創造に向けた取り組み」を、「ESGセクション」では「価値創造を支える取り組み」をご説明しています。

* 国際的な企業報告フレームワークの開発をめざして、民間企業・投資家・会計士団体・行政機関等によって2010年に設立された民間団体

社会の持続可能な発展に向けた取り組みをお伝えするために

CSR活動報告2014 [WEB](#)



患者さん、医療関係者、株主・投資家、地域社会、従業員など、幅広いステークホルダーの皆様を対象に、田辺三菱製薬が2013年度に実施した主なCSR活動（社会の持続可能な発展に向けた取り組み）をお伝えするために制作しています。企業理念に基づいた具体的な取り組みを、ISO26000の中核課題に沿ってご報告しています。



FTSE4Good Index Seriesに選定

田辺三菱製薬は、責任投資（RI）の代表的な指数の一つである「FTSE4Good Index Series」の組み入れ銘柄として、11年連続で選定されています。

FTSE4Good Index Series

FTSEグループが作成する責任投資（RI）に関する指数。独自の基準をもとに、CSR活動で一定の水準を満たした企業を組み入れ銘柄に選定します。2014年3月末時点では、746社（日本企業は176社）が選定されています。

その他のコミュニケーションツール

幅広いステークホルダーの皆様にご理解いただくために、コーポレートサイトを公開しているほか、冊子版のコーポレートプロフィールを制作しています。

コーポレートサイト [WEB](#)



田辺三菱製薬の企業情報に加え、株主・投資家の皆様向けのIRサイトや健康支援サイトなど、各種専用サイトをご用意しています。

コーポレートプロフィール



田辺三菱製薬コーポレートレポート2014のダイジェスト版として、制作しています。

THE KAITEKI COMPANY

三菱ケミカルホールディングスグループ



田辺三菱製薬

www.mt-pharma.co.jp

Printed in Japan